



「寄宿舎ってどんなところ？」～小学部 寄宿舎余暇体験会～

8月20日(水)の小学部登校日に、寄宿舎で「余暇体験会」を行いました。今回は3名の児童が参加し、寄宿舎で楽しい時間を過ごしました。

この体験会は、「寄宿舎ってどんなところ?」「どんな先生がいるの?」といった疑問に答えるために昨年度から始めた取り組みで、今回が2回目の開催です。

今回のプログラムは「メダル集め」と「お茶会」の2本立て。メダル集めでは、寄宿舎ならではの5つの部屋(舎室、多目的室、浴室、生活訓練室、学習室)に用意されたミッションに挑戦し、クリアするとメダルがもらえる仕組みです。ミッションの内容は、新聞紙でテント作り、ミニオリンピック、匂い当て、音当て、水鉄砲で的当て、小麦粉粘土でうどん作りなど、バラエティ豊か!みんな楽しみながらも真剣に取り組んでいました。

お茶会では、自分で作ったテントの中でお菓子やジュースを楽しみながら、寄宿舎の先生たちとたくさんおしゃべり。笑顔があふれるひとときとなりました。

最後のあいさつでは、舎監長の中西先生から「寄宿舎のこと、知ることができましたか?」という質問があり、「寄宿舎の先生の名前を覚えた!」「生活訓練室でうどんを作った!」など、こどもたちがしっかりと体験を通して寄宿舎のことを覚えてくれていた様子が見られました。

次回は12月の平日放課後に、舎生と一緒に遊べる機会を予定しています。詳細は後日ご案内しますので、ぜひご参加ください!



先生たちは 2学期を迎える準備中①

8月22日(金)、職員による清掃作業を行いました。気持ちよく2学期を迎えられるよう、植え込みの剪定や築山・薬草園の雑草の処理等に取り組みました。

暑い中、皆さんお疲れ様でした!



先生たちは 2学期を迎える準備中②

夏休みの期間、教員はさまざまな研修に参加しました。近畿盲学校研究協議会では、各学部や教科、寄宿舎等に分かれ各校の課題等を協議したりしました。

8月22日(金)には、和歌山県教育委員会が主催する「見え方・聞こえ方を意識してこどもに情報を伝えよう」という研修がオンラインで開催され、星槎大学大学院の澤田真弓教授の講義に教員が参加しました。指導目標の設定には丁寧な実態把握が必要である

ことについて再確認することができました。本校が取り組む「授業づくり」の実践に生かしていきたいと思ひます。

